

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 2 日現在

機関番号：32665

研究種目：若手研究(A)

研究期間：2012～2016

課題番号：24683018

研究課題名(和文) 地域特性の経時的変化と地域意識、健康との構造的関係に関する研究

研究課題名(英文) Structural relationships between longitudinal trends of community, evaluation, and health

研究代表者

三澤 仁平 (MISAWA, Jimpei)

日本大学・医学部・助教

研究者番号：80612928

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,600,000円

研究成果の概要(和文)：健康の社会的決定要因として地域に着目した。地域と健康との直接的関係が明らかになっていた。しかし、地域住民の地域意識と縦断的な影響を明確にする必要がある。そこで、本研究は地域意識の縦断的な観点から、地域と健康の関係を検証する。まず、健康の社会的決定要因の概念を明らかにした。次に、社会調査データセットを分析した。健康の社会的決定要因は、構造、仲介、連結要因とマクロ、メゾ、ミクロ水準からなっていた。地域社会における物質的環境だけでなく、社会構造や不安といった心理社会的特性が健康に影響を与える可能性が明らかになった。今後は、社会構造、不安、健康の構造的関係を調べる必要があると思われる。

研究成果の概要(英文)：We focused on community as one of social determinants of health. Previous researches have clarified the direct relationship between community and health. However, we need to clarify community evaluation among residents and longitudinal effects on the relationship. Therefore, we aim to examine the relationship between community and health from the longitudinal perspectives of community evaluation. First, we clarified the concept of social determinants of health. Next, we analyzed various social survey datasets. Social determinants of health consisted of determinants axis (structural, intermediary, and linking determinants), and level axis (macro, mezzo, and micro). Empirical studies showed that not only material environments in the community, but also psychosocial characteristics of anxiety and social structure could affect to health. In the future studies, it suggests that we need to examine the structural relationship between social structure, anxiety, and health.

研究分野：社会学

キーワード：健康の社会的決定要因 健康格差 地域 地域意識 社会調査 健康論 不安

## 1. 研究開始当初の背景

国民皆保険が1961年に施行されて以来、日本人は平等に医療を享受することができるようになり、誰もが健康の平等性を信じて疑うことはなかった。しかし、健康格差についての研究が注目を集め、社会経済的地位によって健康状態に格差が認められることが、公衆衛生学、社会疫学、社会学などの学際的なアプローチから実証的に報告されている(近藤 2005、2007)。

この健康格差の是正に向けて、「健康の社会的決定要因」研究が行なわれている。健康の社会的決定要因としては、職業や世帯収入などの社会経済的地位に代表される個人レベルの社会的要因が大きく関連していることが示されている。しかし、近年においては、個人のまわりを取り巻く社会的環境、とりわけ、地域に関わる特性が健康の社会的決定要因として重要視されている(Kawachi & Berkman 2003)。

これまでも地域特性と健康・健康関連指標との関連について、多くの研究が報告されてきた。地域の物理的環境に関して言えば、地域内における病院数や一般診療所数などの医療資源が多いことが地域住民の医療に対する安心感と正の関連が認められること(三澤 2011)などが示されている。

また、このような物理的な地域環境との関連ばかりでなく、地域に関わる心理社会的な特性と健康との関係もまた認められる。安心して生活することができる社会環境であること(Baum et al 2009)、経済的に裕福な地域であること(Poortinga et al 2008)などが、そこに居住する住民の健康指標にプラスの効果があることが示されている。

しかしながら、これらの研究には課題がある。1つは、さまざまな地域特性と健康指標との関連の直接的な効果しか検討しておらず、さまざまな地域特性・環境に対して住民がどのように認識・評価しているのか(地域意識)、またそれらの複合的な関連がどのように地域住民の健康と結びつくのかが明確ではないという問題がある。第2に、いずれの研究も地域のさまざまな特性と健康との横断的な関係しかとらえておらず、それら特性が経時的にどのように変化し、またその変化によって地域住民の健康・健康関連指標がどのように変容するのかを検討する余地が残されている。

## 2. 研究の目的

以上の問題を解決するために、本研究では、地域住民の地域に対する認識・評価(地域意識)を考慮に入れるとともに、それら意識とさまざまな地域特性の経時的な変化とがどのように関連しあって、地域住民の健康と関係するのかを明らかにすることを目的とする。具体的には、物理的環境と心理社会的特性という2つの側面から、地域の経時的変化、住民の地域意識をとらえることで、健康との

関係を明確にする。

## 3. 研究の方法

### (1) 健康の社会的決定要因の概念的整理

地域と健康との関係を明確にするため、それら概念の関係を整理する必要がある。そこで、健康の社会的決定要因の構造を、先行研究やさまざまな資料からレビューを行なうことで関係性を明確化した。

### (2) 社会調査を用いた分析

本研究では高齢者を対象とした社会調査と東北地方在住の住民対象とした社会調査の2つを実施した。前者は、日本老年学的評価研究(Japan Gerontological Evaluation Study: JAGES)プロジェクトと共同で、10万人を超える高齢者を対象とした社会疫学的調査の一部として2013年に実施した。JAGESプロジェクトでは約3年に一度、日本全国の高齢者を対象に調査を実施している。後者は、東北6県の住民を対象にエリアサンプリングによって留置調査によって2014年に実施した。

さらに、地域に関する特性を収集するために公開されている二次データを統計でみる市区町村のすがたなど官公庁データベースや民力など民間企業が収集しているデータを活用して収集した。

また、筆者がこれまでに関わってきた社会調査データ(2009年仙台市民対象の郵送調査データ、2010-11年JAGESプロジェクト日本全国高齢者対象の郵送調査データ、2011年宮城県民対象の郵送調査データ、2011年仙台市民対象の留置調査データ、2012年仙台市民仙北地域住民対象の留置調査データ(パネルデータ)、2013年岩手宮城福島県民対象のインターネット調査データ)も用いた。

これらのデータセットから、精神的健康状態、睡眠問題、終末期における在宅療養の可否、健康意識・不安、医療アクセス、主観的健康感を健康関連指標として分析した。地域変数は、所得格差、地域の活性度、医療化を用いた。地域意識に関しては、地域コミュニティに対する評価を用いた。分析方法は、健康関連指標をアウトカムとして、個人の社会経済的地位などを統制して、一般化線形混合効果モデルにより、横断的および縦断的に解析した。

## 4. 研究成果

### (1) 健康の社会的決定要因の構造

健康の社会的決定要因は、構造的要因、健康仲介要因、それらをつなぐ連結要因の軸と、マクロ(社会)、メゾ(地域)、ミクロ(個人)水準の軸との2軸から構成されていた。

ミクロ水準の要因としては、民族、階層帰属意識、ソーシャルサポート、ジェンダー、社会階級、ライフコース、教育水準、収入、職業などがあり、これらは構造的な要因とみなされた。同じくミクロ水準の要因ではある

が、健康関連行動、ヘルスリテラシーなどが健康仲介要因とみなされた。つぎにメゾ水準では、社会的ネットワーク、ソーシャルキャピタル、社会関係などが連結要因であり、一方、住環境や社会資源、食料アクセスなどが健康仲介要因であった。さいごに、マクロ水準では政治、経済政策、社会政策、公衆衛生、文化社会的価値などが構造的要因と考えられた。

本研究の位置づけでは、物理的環境がメゾおよびマクロ水準での構造的要因にあたり、心理社会的特性がミクロ水準での健康仲介要因にあたる。

## (2) メゾ/マクロ水準での構造的要因、ミクロ水準での健康仲介要因と健康アウトカムとの関係

まず、地域の物理的環境と健康との関連について検討した。地域の所得格差が大きいほど高齢者のうつ発生割合が高いこと、住民が働きやすい環境が整っているほど住民が医療アクセスに安心を感じていること、かかりつけ医をもちやすい地域かどうかがかかりつけ医をもつことに関連していることなど、地域の物理的環境が個人の健康関連指標と関係が見られることが明らかになった。

しかし、このようなメゾ水準での物理的環境の影響ばかりでなく、社会保障などのメゾ水準での構造的要因が、睡眠問題の発生に影響する結果が得られた。このことから、社会背景としての構造的要因の詳細な解析が重要であると考えられた。

構造的要因のひとつとして、筆者は医療化概念や、その関連概念としての製薬化や健康志向化などの概念的整理を行なった。地域の物理的環境という構造的要因と健康との単純な関係ではなく、リスク社会を背景とした社会の医療化など社会構造との関連で健康との関係を探究することが重要であることが示唆された。

つぎに、地域の物理的要因ばかりでなく、地域をどのように評価しているかという心理社会的特性と健康との関連を検討した。

地域コミュニティに対する評価が高い人は地域における医療連携や医療の環境整備を重要だと考えていた。さらに、終末期での在宅療養に関して、地域コミュニティが乏しいと考えている地域は、医療機関との連携が重要であるが、地域コミュニティが豊かだと考えている地域は医療と介護の連携がなくともよりよい在宅生活につながる可能性が示唆された。このことから、自身が居住している地域コミュニティを住みやすいところと認識している心理社会的特性は、自身の健康関連要因と関連することが明らかになった。

さらに縦断的検討を行なった。仙台市民のパネルデータを用いて、睡眠問題への関連要因を検討したところ、心理社会的特性として考えられる生活不安などの不安感が影響し

ていることが明らかになった。また、宮城県民の繰り返し反復横断調査データを使って、年齢・時代・コーホート分析により主観的健康感の関連要因を検討したところ、時代効果が関連していることが示され、経済的不況など社会構造における時代背景の重要性が示唆された。

このように、これまでに見てきたように、地域と健康との関連を検討するには、地域における物理的環境が健康に影響するという単純な構造ではなく、その背景にある社会構造や不安などの心理社会的特性が、健康概念を明確にするのに重要であると指摘することができよう。このことは、健康が多義的な概念であることと、健康の社会的決定要因研究が要素還元主義的になっているという問題を抱えていることを示唆している。健康の本質を探究するには、哲学および社会理論を用いて検討する必要があると言えよう。

最後に社会構造と不安とに着目して、健康との関連を検討した。リスク社会で生きていくことに多くの人びとが社会経済的な不安を覚える状況だからこそ、とりわけ社会的に脆弱な人びとにとっては、すぐれるものは自身の身体、ひいては、「寄り添いとしての健康」に関心を持たざるを得ないと指摘されていることから(三澤 2011)、不安と健康志向(身体の医療化)との関連を解析した。その結果、不安の人は健康を志向しないということが明らかになった。健康を志向できるのは、比較的高い階層集団であって、経済的に不安な層、低い層の人びとは、健康へは消極的非健康志向にならざるをえないと言えよう。これは、健康格差が拡大してしまう可能性を指摘できるように思われた。

今後の課題としては、社会構造と不安との関連から健康との関係を精査していくことが必要と考えられた。そのために、まずは社会構造としてリスク論にもとづく医療化論の観点から健康影響を検討することや、不安が湧出する歴史文化的背景を探究するために、日本人がどのような精神性を有しているのかを検討していく必要があると思われた。

## <引用文献>

- 近藤克則、健康格差社会 何が心と健康を蝕むのか、医学書院、2015
- 近藤克則、検証「健康格差社会」 介護予防に向けた社会疫学的大規模調査、医学書院、2007
- Kawachi, Ichiro and Lisa F. Berkman, Neighborhoods and Health, Oxford University Press, 2003
- 三澤仁平、地域の医療提供体制が住民の安心感へ及ぼす影響、日本医療・病院管理学会誌、48(2) : 5-11、2011
- Baum FE, et al, Do perceived neighbourhood cohesion and safety

contribute to neighbourhood differences in health?, Health & Place, 15(4): 925-934, 2009  
Poorting W, et al, Neighbourhood deprivation and self-rated health: The role of perceptions of the neighbourhood and of housing problems, Health & Place, 14(3): 562-575, 2008  
三澤仁平、地域における医療資源がもたらす主観的健康感への影響 健康観の視点からの検討、保健医療社会学論集、22(1): 69-81、2011

## 5. 主な発表論文等

### 〔雑誌論文〕(計 6 件)

三澤仁平、地域住民のヘルスケアに対する評価と地域コミュニティ意識との関係からみえる地域包括ケアシステム、地域ケアリング、査読無、18 巻 2 号、2016、pp. 68-72

三澤仁平、利用者の視点から見た終末期における在宅生活の実現可能性と連携、地域コミュニティとの関係、地域ケアリング、査読無、17 巻 14 号、2015、pp. 98-100

三澤仁平、健康を維持し、増進する責任はだれにあるのか 社会経済的地位との関連から、立教社会福祉研究、査読無、34 巻、2015、pp.9-17

三澤仁平、医療化論のゆくえ、応用社会学研究、査読無、57 巻、2015、pp.133-139

三澤仁平、東日本大震災後の不眠と社会経済的不安感との関連 - 仙台市民対象の統計的社会調査を用いた検討 -、応用社会学研究、査読無、56 巻、2014、pp.17-31

三澤仁平、将来への展望および現在の社会生活に関する不安がもたらす健康不安への影響、応用社会学研究、査読無、55 巻、2013、pp.127-139

### 〔学会発表〕(計 17 件)

三澤仁平、東日本大震災以前の精神健康と社会経済状況との関連、第 3 回東日本大震災研究交流会(日本社会学会 震災問題情報連絡会 震災問題研究ネットワーク主催)、早稲田大学(東京)、2017 年 3 月 10 日

三澤仁平、社会経済的不安と健康志向との関連 東北 6 県居住者対象の社会調査の分析、第 89 回日本社会学会大会、九州大学伊都キャンパス(福岡)、2016 年 10 月 9 日

三澤仁平、東日本大震災から 4 年後の精神的健康と社会経済的不安感との関連、第 62 回東北社会学会、東北大学(仙台)、2015 年 7 月 19 日

三澤仁平・菊地和則・大塚理加、在宅療養者の在宅生活と連携、地域コミュニテ

ィとの関連 - 居宅介護支援事業所調査より、第 73 回日本公衆衛生学会総会、宇都宮東武ホテルグランデ龍田(栃木)、2014 年 11 月 6 日

Misawa, Jimpei, "Ecological Study of Relationship between Self-rated Health and Income Inequalities in Japanese Disaster Area," The 15th Biennial Conference of the European Society for Health and Medical Sociology, University of Helsinki (Helsinki, Finland), 2014 年 8 月 28 日

Misawa, Jimpei, "Did mental health of residents after the Great East Japan Earthquake get worse than before? An analysis of using repeated cross-sectional survey", The Society for the Study of Social Problems 64th Annual Meeting, Marriot Marquis (San Francisco, USA), 2014 年 8 月 16 日

Misawa, Jimpei, "Rethinking Pharmaceuticalisation from the View of Japanese Context" XVIII ISA World Congress of Sociology, Pacifico Yokohama (Yokohama, Japan), 2014 年 7 月 19 日

Misawa, Jimpei, "A study of relationship between socioeconomic status and insomnia after the Great East Japan Earthquake: Analysis of longitudinal survey for residents in Sendai city" the 88th International Conference of Korea Association of Japanology, Chung-Ang University (Seoul, Korea), 2014 年 2 月 8 日

三澤仁平・菊地和則・大塚理加、東日本大震災後の自治体における在宅医療整備の実態と今後の展望、第 72 回日本公衆衛生学会総会、三重県総合文化センター(三重)2013 年 10 月 23 日

三澤仁平、東日本大震災後の不眠と所得格差との関係 社会的文脈を考慮に入れた相対所得仮説モデルの適用、第 86 回日本社会学会大会、慶應義塾大学(東京)、2013 年 10 月 12 日

Misawa, Jimpei, Kazunori Kikuchi and Rika Otsuka, "Do Social Contexts Influence Self-rated Health in Adults? An Analysis of using Repeated Cross-Sectional Survey," Autumn Conference of the Section Sociology of Medicine and Health of the German Sociological Association, European University Institute (Florence, Italy), 2013 年 10 月 3 日

三澤仁平、かかりつけ医の利用に関する個人的・地域的要因、第 51 回日本医療・病院管理学会学術総会、京都大学(京都)、2013 年 9 月 27 日

Misawa, Jimpei, " Association between  
Insomnia and Socioeconomic Status in  
Disaster Area after the Great East  
Japan Earthquake, " the British  
Sociological Association Medical  
Sociology Group 45th Annual  
Conference 2013, York University  
(York, UK), 2013年9月11日

三澤仁平、東日本大震災前後の被災地に  
おける精神的健康 K6 を用いた分析、  
第 39 回日本保健医療社会学会大会、東  
洋大学(埼玉)、2013年5月19日

三澤仁平・近藤克則・鈴木佳代・近藤尚  
己、高齢者における所得格差とうつとの  
関連：JAGES プロジェクトによるエコロ  
ジカル研究、第 71 回日本公衆衛生学会  
総会、サンルート国際ホテル山口(山口  
県)、2012年10月26日

三澤仁平、まちの活性度と住民の医療提  
供安心感との関連、第 50 回日本医療・  
病院管理学会学術総会、学術総合センタ  
ー(東京都)、2012年10月18日

三澤仁平、医療化社会における個人の健  
康観、第 38 回日本保健医療社会学会大  
会、神戸市看護大学(兵庫県)、2012年  
5月20日

〔図書〕(計 0 件)

なし

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等  
<http://misawajimpei.com/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

三澤 仁平(MISAWA, Jimpei)  
日本大学・医学部・助教

研究者番号：80612928

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

なし

### (4) 研究協力者

なし